

ならちゅうしん経営研究会 例会報告

第 311 回 研究会

日 時 平成 29 年 4 月 19 日(水) 午後 4 時 ~ 午後 5 時 30 分

場 所 奈良中央信用金庫 3 階 ホール

講 師 京都戦略経営研究所 代表 太田 邦幸 氏

テーマ 社長と後継者のための後継者セミナー
～家業経営から企業経営への脱皮～

今回の研究会は、京都戦略経営研究所を主催されている太田邦幸氏を講師にお招きして、「社長と後継者のための後継者セミナー～家業経営から企業経営への脱皮～」と題して、ご講義を頂きました。

講義は、企業 30 年説の説明から始まりました。会社の寿命は 30 年と言われますが、それは 1 人の経営者が一線で活躍できる期間が長くて 30 年ということで、経営は必ず、事業継承しなければなりません。事業継承と云うと、①いかに資産を減らさないで継承するか、②いかに相続の問題を起こさずに継承するか、③いかに税金を少なくして継承するか、などといったことに専門家は注目しますが、これは事業継承の手段であって、目的ではありません、事業承継の目的は「いかにして事業をより発展させるか」です。

続いて会社の発展と経営の変化についての説明に講義が進みました。創業→年商 10 億円→30 億円→50 億円→80 億円→100 億円と会社を発展させていくためには、社長個人が頑張る『家業経営』から、チームの相乗効果で目標を達成する『企業経営』への脱皮が必要です。大事な時期が年商 30 億円を超えた家業経営と企業経営の混在時期で、最も大きな転換期は年商 50 億円を超えて企業経営に脱皮する時期です。

そして講義は成長戦略に進みました。会社が成長する鍵は、目標管理と統一戦略の策定であり、商品－市場マトリックスや、事業別採算管理制度、年功序列から能力序列への人事制度の変更、企業経営のあるべき組織体制、などについて説明頂きました。そして家業経営と企業経営の違いは、戦略企画担当者がいるかどうかで決まるということでした。

最後に後継者の条件についてのお話があり、後継者の条件は、①「価値観」が同じ人、②会社（経営）の夢が描ける人、③戦略発想ができる人、④経営の勘がいい人、⑤自分の責任から逃げない人、であり家業経営と企業経営のバランスをとり、組織に新陳代謝を起こし、経営革新を進めていくことが出来る人であるとのことで講義を締めくくられました。

以 上

